

## 企業内情報処理教育における電子会議室活用の試み

6 X - 5

平野 一路

日本アイ・ビー・エム(株)

1.はじめに

企業内の社員情報処理教育に、社内のネットワーク上に設けられた電子会議室システムを活用した事例を報告する。

従来の社員情報処理教育では、教室に受講生を集めて講師が講義を行う方式を取っていたが、受講生である社員にとって決められた時間に決められた教室に集まるということは時間的・物理的な制約が大きく、また講師にとっても受講生一人一人の質疑に対応するのは困難であった。

そこで、受講生がネットワークに接続された自席のパソコンから、社内のネットワーク上に設けられた電子会議室システムにアクセスすることにより学習を進める通信講座方式を導入し、学習能率を高めることを試みた。

2.システムの基本的な考え方

受講生の対象は、情報システム部門のSEである。彼らは、日常業務を主にオフィスの自席のパソコンに向かって行っている。各パソコンはホスト・コンピュータ上に構築された社内ネットワークにつながっている。

このような環境下で通信講座を行うために、電子会議システムを構築した。講師と受講生とのやりとりは以下のようにして行う。

◎講師から受講生へ指示を与えるたり、講義を行ったり、課題を出題する際には、会議室にその内容を書く(図1)。

◎受講生から講師へ質問を行う際には、同様に会議室にその内容を書く。講師はそれを読み、その回答を会議室に書く。また、課題の提出には、講師へ個別に電子メールで送付する(図2)。

3.システムの構成

電子会議室システムは、図3(のBとC)の構成となっている。

Aは、オフィスの日常業務(電子メール等)を支援するための統合システム。Bは、電子会議室を管理するプログラム。Cは、会議室を読み書きする際のインターフェース・プログラムである。会議室使用者はまずAのシステムに入ってから、電子会議システムを起動する。

Bの管理プログラムは以下の機能を提供する。

- ・存在する会議室の一覧表示
- ・会議室の受講登録(または登録削除)
- ・会議室の登録状況表示(参加人数、参加者のID他)
- ・会議室の読み／書き

受講生は、受講開始時に会議室の登録を行う。登録により、会議室に文書が書きこまれるたびに、その文書が自動的に全受講生へ電子メール形式で送付される。これにより受講生は新規の書き込みがあったことを知る事ができる。しかし、その一方メールが大量に何度も送付されるために、その管理／整理が大変な作業となってしまう事が考えられる。

この為に、会議室のデータ(文書)を保管しているホスト上のディスクに直接アクセスし、過去の文書を一括して読むことができるCのインターフェースを用意した。受講生は、送付されてきたメールの内容を確認したら(自分のディスクに保管せずに)破棄していく。破棄後、会議室を読み書きしたい時には、上記のインターフェース・プログラムを起動すればよい。

4.実際の運用方法

今回の試みでは、講義内容として「C言語プログラミング入門」を取り上げた。

ネットワーク上には以下の2つの会議室を用意した。

- (1) C言語 会議室
- (2) Q&A 会議室

それぞれの役割は以下の通りである。

1は講師から受講生へ指示／講義／課題の内容を伝えるための会議室(講師のみ書き込み可能 図1参照)。

2は受講生が質問を載せ、またそれに対して講師が回答するための会議室(図2参照)。

会議室は「受講生以外の社員はアクセス不可」と、システム上で設定した。

5.評価

今回の試みで、以下の評価が得られた。

- ・[システムの使い易さが好評だった]
- 会議室の読み書き用に、多機能で操作が容易な(ユーザー)インターフェースを提供した事により、受

講生にとって使い易いシステムとなった。  
 ・[講師の受講生管理が容易であった]  
 受講生は約20人であったが、受講生への指示／講義／課題の出題が一括して行えるので、講師の負担が軽減した。また、管理者プログラムを使用することにより、受講生のアクセス状況が簡単に把握できた。

・[受講生からの質問が活発に出た]  
 Q&A会議室には、プログラミングの環境から講義の内容まで、様々な質問が出た。また、会議室への書き込みは全受講生に電子メールとして送付されるので、「(他の受講生の)質問→(講師の)回答」のやり取りを読む事により受講生の理解力が高まった。

#### 6. 今後の課題

現在のシステムで扱っているのは、文字情報が中心でプログラムコードやグラフィック情報は扱っていない。情報処理(特にプログラミング)を教える際に、コードやグラフィックによる説明は有用なので、これらの情報も扱えるようにシステムに改良を加えていくことが必要であろう。

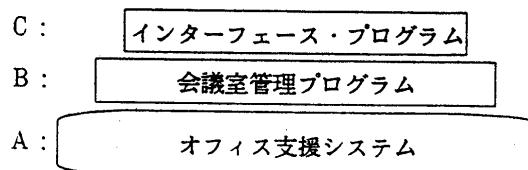
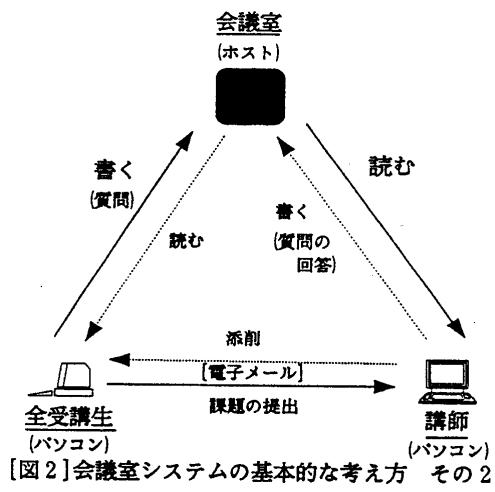
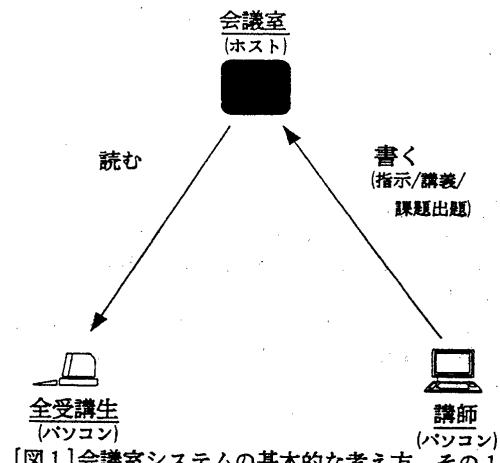
#### 7. おわりに

企業内の情報処理教育を、電子会議室を利用して行なった事例について報告した。

電子会議室を利用することで、受講生である社員は就業時間中いつでも自席で学習する事ができ、また講師は受講生の一括管理が容易にできた。

本稿で説明した方式による講座は、1992年7月に1ヶ月にかけて行われたが、おおむね好評であった。引き続き、9月にもこの方式による講座が開講予定である。

今後はこれらの経験をもとにシステムの改良・運営方法の検討を行い、より効果的な教育システムを作り上げる予定である。



[図3]会議室システムの構成